

【発表者について】アンダーラインは本学教員、研究員お、○は発表者、※は大学院生、卒研究生または卒業生

	電子情報通信学会・第113回福祉情報工学研究会
	色覚異常を体験する間違い探しゲームの開発
	本橋純平※, ○塩野目剛亮
	<p>平成22・23年度における先天色覚異常の受診者に関する実態調査に、<u>本学</u>、<u>高校</u>3年の先天色覚異常者の推定受診率は1.2%と少なく、そのほとんどが自らの色覚異常を知ることなく進学・就職に向かい合っている現状が示唆されている。色覚異常のある人が困難を感じる場面を知り、色だけに依存しない情報提示をすることは、誰にとっても重要である。</p> <p>本研究では、色覚異常がある人はどの<u>見え方</u>なのかという認知の向上を目的として、色覚異常を体験する間違い探しゲームの開発をしている。シミュレータを通じた色覚異常の見え方の体験を通して色覚異常についての認知が向上し、このことがゲームのクリアタイムや合計クリック数にどの<u>影響</u>があるかを実験的に検討する。</p>